

そこにはそれぞれの幸福や楽しみ喜びがあり、夢も希望もあることを僕も知らないわけではないけれど。そのどれもがどんなにささやかであろうと、この世界と切り離されることのない営みであることを思えば、その世界の偏った経済的沸騰と容赦なき武断政治の行使がもたらす残虐な光景は、やはり荒涼としか言いようがない、それが荒野に見えるのである。そしてその荒野はさらに、もはや現実と非現実の境界も違いも定かではない、幻想を超えた光景として「超荒野」なのである。

では「芸術」の現在は、そんな世界とどう関係しているのだろうか。それは同時に僕が世界をどう見て思考し制作しているか、そのことによってどう関係しているかということであり、それはおのずと作品そのものの内容にまでおよぶことになる。しかし芸術は屈折している。曲者なのだ。たとえば世界への怒りというか、異和をそのままストレートに表現すると「芸術」の思考が制作が問いが、すぐにすり替わってしまう。別のものになる。つまり芸術でなくともよくなってしまうのだ。これはかつての社会主義リアリズムはもとより現在の資本主義リアリズムだってそうだ。そう芸術でなくてもよいのなら、じゃあそれは何なんだというわけだ。あのなんでもありの現代アートだって同じようにアートでなくともよいものとして、商品そのものになっているのを見ればわかる。

ニコラ・ブリオーが『関係性の美学』の中で言ったように、アートの特徴が「芸術の領域外の関係の生産にある」ことこそが、「現代アート」らしさとして自らを「芸術」と区別しているのである。芸術からすれば、芸術の屈折がアートに変わってしまったということになるだろうか。このように芸術はこの世界とどう関係するののかという問いは、芸術と芸術からの逸脱という二律背反を危うくも抱え込んでいる。もし芸術でなければならないのなら、そこにはどうしても芸術の自律性は残るのだ。作品というものも自律的にしか世界と関係できないのだとすれば、そのような作品のありようが、作品自体を作ってしまうことになろうか。そこには始めから「意図」などないのである。

さて、ここにあるのは取り敢えずは「絵画」ということになるだろうか。誰からもそう見えてしまうのは致し方ないが、僕にとってはそれと同じくらいに「非絵画」にも思える。じぶんで描いておきながら変なのだけれど、前にも言ったが「絵画の向こうには膨大な image (映像) が群れをなしている」のだから、絵画にもそれはまとわりついているはずなのだ。いやそういう圧倒的な非絵画の経験や目を通して私たちは目の前のこの「絵画」を見ているのだと思う。絵画というものを固定的に考えてはいけない。絵画はつねに揺らいでいるのである。すでに崩れかけていながら立っているものともいうか。半ば〈映像化〉した絵画にはもう近代的な解釈は適用できないのではないか。表面も手前も背後もそして向こうもない。ただイリュージョンだけはかろうじて残ってはいるが。

そして凍てつく灼熱の、喧騒の坩堝であり幻想を超えた地上の「ハイパーランド、超荒野」に戻ろう。断っておかねばならないが、ここに描かれているのが「超荒野」なのではない。現在の世界を〈超荒野〉として受け止めるとき、このようなものになったというべきか。もちろん直接ここに荒涼とした風景が広がっているのでもなければ、それが描かれているわけでもないことだけは分かっているだけだろう。貧困も富裕も殺戮も破壊もすべての反感も共感もそして感情さえも数値化され、冷徹な利害の比較に延々と終始する世界の何をもここでは描けない。おそらく絵画というものの現在は未来は想像を超えて無力なのだと思われる。ではなぜ描かれるのか、描くことができるのか。それは人間の無力さがまだ足りないからかもしれない。完全に無力化するまで絵画は描かれるに違いない。だがそれではもう遅すぎるだろう。

元村正信 [もとむら・まさのぶ | 美術家]

MOTOMURA Masanobu E X H I B I T I O N 2 0 2 5

In the hyper wasteland

元村正信 | ハイパーランド 超荒野

ART PRO GALA

アートプロ ガラ

Tel 092 738 0655

<https://lolipop-artpro-gala.ssl-lolipop.jp/>

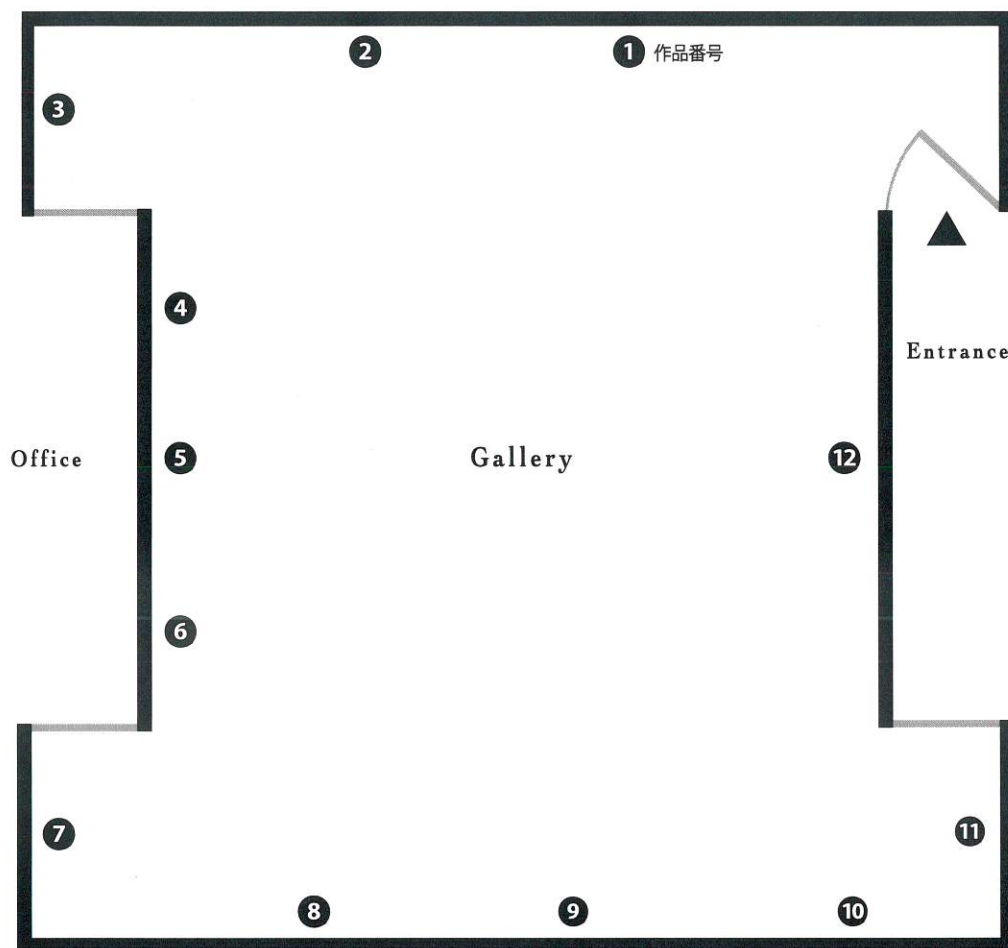
E-mail: info@artpro-gala.com

1F, 1-3-31 maizuru, chuo-ku, Fukuoka, 810-0073 JAPAN

Oct. 7 ▶ Oct. 25, 2025

open 12:00-18:00

closed_sun, mon



ART PRO GALA 2025

作品番号	タイトル	制作年	素材	サイズ	価格
①	ハイパーランド、超荒野	2025	紙、ミクストメディア	1900×1410mm	応希望
②	〃	〃	紙、ミクストメディア	1410×1900mm	応希望
③	〃	〃	木アクリル額、紙、ミクストメディア	228×317mm	¥38,000
④	〃	〃	木枠、麻布、ミクストメディア	158×227mm	¥35,000
⑤	〃	〃	木枠、キャンパス、ミクストメディア	1300×970mm	¥310,000
⑥	〃	〃	木枠、綿布、ミクストメディア	158×227mm	¥35,000
⑦	〃	〃	木アクリル額、紙、ミクストメディア	228×317mm	¥38,000
⑧	〃	〃	紙、ミクストメディア	1900×1410mm	応希望
⑨	〃	〃	紙、ミクストメディア	1410×1900mm	応希望
⑩	〃	〃	木枠、綿布、ミクストメディア	158×227mm	¥35,000
⑪	〃	〃	アクリル額、木枠、綿布、ミクストメディア	217×299mm	¥41,000
⑫	〃	〃	紙、ミクストメディア	1900×1410mm	応希望

(価格は全て税込)

MOTOMURA Masanobu E X H I B I T I O N 2 0 2 5

元村正信 | ハイパーランド、超荒野

In the hyper wasteland

B i o g r a p h y

元村正信 MOTOMURA Masanobu

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1953 | 北九州市八幡東区生まれ | 2000 | 舞踏「風の鬘」(風神篇) 舞台美術
(福岡アジア美術館あじびホール)
個展(アートスペース貌 & 屋根裏貌) 福岡 |
| 1978 | 九州産業大学大学院 芸術研究科 単位取得除籍 | 2001 | 六月のジュエル (アートスペース貌) 福岡 |
| 1975 | 個展(田村画廊) 東京
WORK PARTY No.1 (新出光サロン) 福岡
個展(新出光サロン) 福岡 | 2002 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1976 | 第11回ジャパンアートフェスティバル
(上野の森美術館) 東京・ロサンゼルス・シアトル
表面風景 (福岡県文化会館) 福岡
個展(秀巧社 HALL4F) 福岡 | 2003 | WORKS OF AROUND 30 (WALD) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1977 | 個展(アートスペース貌) 福岡
作業と手続 (福岡県文化会館) 福岡
17人による白の空間展 (福岡県文化会館) 福岡
個展(田村画廊) 東京
プリントアート'77
(福岡市アートギャラリー・アートスペース貌) 福岡
個展(福岡県文化会館) 福岡
昼下りの事情展(福岡県文化会館) 福岡 | 2004 | 個展(アートスペース貌) 福岡
北九州美術 1904-2004 (北九州市立美術館) |
| 1978 | 映像の映像(東京電力ギャラリー) 浦和
パーソナルフォーカス'78(福岡市民会館小ホール) 福岡
個展(田村画廊) 東京
個展(真木画廊) 東京 | 2005 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1982 | 個展(駒井画廊) 東京 | 2006 | 美術と写真の臨界 (アートスペース貌) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1983 | 個展(田村画廊) 東京 | 2007 | 「DRAMA」(アートスペース貌) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1984 | 個展(真木画廊) 東京 | 2008 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1987 | 個展(PASSAGE4F) 福岡 | 2009 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1988 | 個展(ギャラリーロフ) 福岡 | 2010 | 非知なるものの日々(アートスペース貌) 福岡 |
| 1989 | 個展(アートスペース貌) 福岡
個展(DKギャラリー) 福岡 | 2011 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1990 | 個展(アートスペース貌) 福岡 | 2012 | 正方形+長方形+ α 展(ヴァルトアートスタジオ) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1991 | 個展(ギャラリーアッシュ) 福岡 | 2013 | 福岡現代美術クロニクル1970-2000(福岡県立美術館・福岡市美術館)
「過剰した愛」ディレクション(アートスペース貌) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡
個展(ヴァルトアートスタジオ) 福岡 |
| 1993 | NINGEN EXHIBITION (WALD) 福岡
個展(久我記念美術館) 福岡県須恵町
DRAWING (フェイスギャラリー) 福岡 | 2014 | 長方景展(ヴァルトアートスタジオ) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1994 | 場の夢・地の声(旧上妻邸) 津屋崎
個展(天画廊) 福岡 | 2015 | MONOCHROME SHOW (ヴァルトアートスタジオ) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1996 | ゆりが丘アート・プロジェクト(福岡県宇美町)
個展(天画廊) 福岡
個展(ギャラリー21) 北九州 | 2016 | 個展(アートスペース貌) 福岡
「沸展」(田川市美術館) |
| 1997 | WALD SERECTION (WALD) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 | 2017 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1998 | 個展(アートスペース貌) 福岡 | 2018 | 25th WALD セレクション(ヴァルトアートスタジオ) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| 1999 | 個展(アートスペース貌) 福岡 | 2019 | 「モノリスの向こう」ディレクション(アートプロガラ) 福岡
個展(アートスペース貌) 福岡 |
| | | 2020 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| | | 2021 | 個展(アートスペース貌) 福岡 |
| | | 2022 | 個展(アートプロガラ) 福岡 |
| | | 2024 | 個展(EUREKA) 福岡 |
| | | 2025 | 安倍文範コレクション展(旧玉乃井旅館) 津屋崎
個展(アートプロガラ) 福岡 |